

興徳クリナー(大阪府岸和田市、片瀨昭人社長、☎072・444・2460)は、特別管理産業廃棄物を含む廃酸・廃アルカリ、廃油などの廃液に対応する中間処理施設「岸之浦工場(大阪府岸和田市)を完成、本格稼働に入った。

徳興クリナー 総事業費10億、 鉍物資源抽出も

新工場は岸和田市の臨海部岸之浦町に位置する約20000坪(6815平方メートル)の敷地に工場棟事務・分析棟、トラックステール、受入専用ヤードなどを配している。総事業費は10億円以上。同社は、従来から本社工場(大阪府岸和田市)で汚泥を中心とした中間処理事業を手掛けてきたが、廃液は提携業者の施設を利用

してきた。岸之浦工場の稼働により、汚泥から廃液まで総合的に対応できる体制を整えた。1日当たりの処理能力は165立方メートル、受け入れについては1日当たり最大約320立方メートルまで可能だ。フッ酸廃液やニッケル・銅含有廃液を中和・濃縮。蛍石、ニッケル、銅などの鉍物資源を抽出、資源化する。

管理室でコントロールする。工場内には3台のカメラを配備しており、設備の稼働状況をはじめ、車両の出入りまで、すべてリアルタイムで視認できる。タンクローリーで搬入される産業廃棄物は、すべて受入専用ヤードに駐車。ポンプにより吸引排出するため、車両に余分な負担がかからず、廃液の漏えいの防止を図っている。また、受入専用ヤードには囲いを設け、場外への廃液漏れ対策を講じている。

同社は、従来から本社工場(大阪府岸和田市)で汚泥を中心とした中間処理事業を手掛けてきたが、廃液は提携業者の施設を利用

集荷は、同社グループで収集運搬部門を担当し、一般貨物自動車運送業の許可も取得しているケーシーエス(大阪府岸和田市)が行うほか、外部からの持込みも受け付ける。エリア的には、近畿圏内から中部地域までを視野に入れる。



本格稼働に入った岸之浦工場

廃液中間処理施設が本格稼働

岸之浦工場